

特集 地域への愛着心

荒廃農地を再生し、住民憩いの場を創造した徳山区に見る地域愛着心

この地はかつて、人の背丈ほどもある草が一面に生い茂る湿地帯だった。
「住民が集い憩う場」を創造しようとした地域住民の情熱は、
4年という歳月をかけて、ここに水と緑があふれる公園をつくり上げた。
週末には子どもたちの元気な声が響き、池のほたりでは親子連れが微笑み合う。
毎日のようにグラウンドゴルフを楽しむ人たちがいる。
公園の誕生から9年が過ぎた今も、美しい景観はそのままに、
新たなアイデアで成長を続ける、完成しない公園「ときどんの池」。
「自分たちの地域は、自分たちでつくり上げよう」と、
地域住民が一丸となって取り組んだ、一つの歴史。一つの誇り。

本号特集では、地域づくりに情熱を燃やした人々の、そんな物語をのぞいてみる。



大井川鐵道駿河徳山駅から徒歩3分ほどのところにある「徳山自然観察公園ときどんの池」。元々は放棄水田跡地（湿地帯）だった場所だ。今では池に鯉が優雅に泳ぎ、そのかたわらに水車が回る。池には木製の遊歩道が設置され、池の上を散策できる。池のほたりには東屋（休憩所）も整備され、散歩途中に立ち寄る人も多い。ホタルの保護活動、グラウンドゴルフ場、炭焼き小屋、ブルーベリー園など多角的な取り組みは、すべて地域住民の発案、地域住民の手によるものだ。